

曾我地区



【地区の自然環境概要】

曾我地区は、森、里及び川の要素を持つ地区です。

西部には水田が広がり、鬼柳用水路には在来のメダカが生育しています。梅や梨等の果樹園も広がり、田園環境を好む動植物の生育・生息の場所となっています。

中央部から北東部にかけてはミカン畑などの果樹園から森林に遷移する大磯丘陵地帯となっており、丘陵地等の里地里山環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。

西側には酒匂川が流れ、周辺は河川や河川敷などの水辺環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。



【地区で見られる動植物】

河川や水田など水辺環境が特徴的であり、このような環境を利用する動植物の生育・生息の場となっています。良好な田園環境は、その環境のみで生育・生息できる種の貴重なすみかでもあり、大切に守っていききたい環境です。また、里地里山では人間と動植物の関わり合いが重要であり、うまく共存していく必要があります。

- 上曾我の二次林が広がる樹林では、ムササビやニホンノウサギ等の哺乳類が確認されており、フクロウの鳴き声の確認情報もあります。¹また、イヌシデやツルウメモドキ、アオキ等の植物、アオゲラやセンダイムシクイ等の鳥類、モリチャバネゴキブリ等の昆虫類などが見られ、樹林環境を特徴づける種が生育・生息しています。²
- 果樹園や畑地などの農耕地では、カタバミやホトケノザ等の植物、イノシシ等の哺乳類、モズ等の鳥類、ニホンカナヘビ等の爬虫類などが見られ、農耕環境を特徴づける種が生育・生息しています。³
- 水田地帯には、デンジソウ（絶滅危惧種）やオモダカ、コナギ等の水田雑草が生育しています。アズマモグラやカヤネズミ等の哺乳類、キジやヒバリ等の鳥類、ニホンアマガエル等の両生類、コオイムシ等の昆虫類などが見られ、水田環境を特徴づける種が生息しています。⁴また、ケリの繁殖も確認されています。⁵
- 魚類では、岩太郎川でオオヨシノボリなどの流れの速い溪流環境を好む種が生息しています。酒匂堰では、ボウズハゼやオオヨシノボリなど流れの速い溪流環境を好む種のほか、外来種であるカラドジョウなどが生息しています。また、桑原・鬼柳用水路では緩い流れを好むドジョウやミナメダカ（絶滅危惧種）が生息しており、小田原メダカ発祥の地でもあります。今も希少な植物や水草が多く生育しており、アカハライモリ（絶滅危惧種）等の両生類、ヒバカリ等の爬虫類などが確認されているほか、ケリなどの鳥類も多く確認されています。⁶

¹ 参考：平成 29 年（2017 年）～令和元年（2019 年）に実施したヒアリング調査

² 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

³ 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

⁴ 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

⁵ 参考：平成 29 年（2017 年）～令和元年（2019 年）に実施したヒアリング調査

⁶ 参考：平成 29 年（2017 年）～令和元年（2019 年）に実施したヒアリング調査結果



ニホンノウサギ

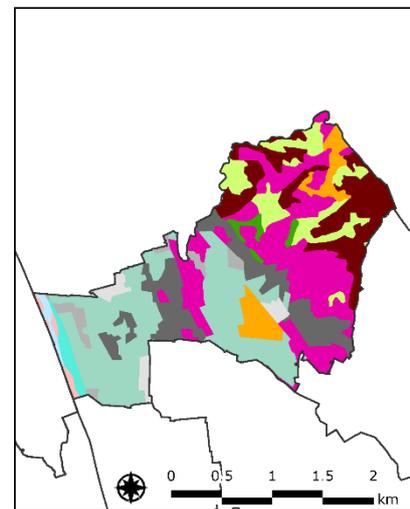
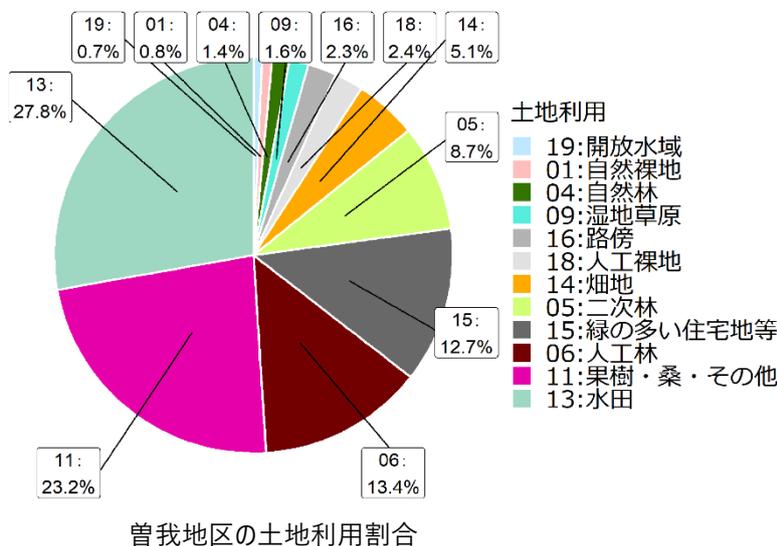


モズ



ニホンカナヘビ

- 植生図をもとに作成された土地利用を見ると、中央部から西部にかけて広範囲で水田が広がり、土地利用の約3割を占めています。中央部から東部にかけては果樹園や畑地、人工林、二次林、緑の多い住宅地等が見られ、里地里山環境が約5割を占めています。酒匂川周辺は、開放水域や湿地草原、自然裸地等の水辺環境が見られます。⁷



【暮らしと自然のつながり（生態系サービス）】

自然体験・観察の場や身近にある緑、食の供給、生活環境の調整など、日々の生活の中で自然環境からの恩恵を受けています。

～文化的つながり～

- **自然体験・観察の場**：「曾我梅林」では、食用の梅を生産するとともにその花の美しさ、可憐さ、高貴さを楽しんでいただくため、約40年ほど前に地元農家が実行委員会を作り、梅祭りを開催するに至りました。「曾我梅林」は、中河原・原・別所（当時）の各梅林からなり、約35,000本の白梅が植えられています。食用梅の生産が目的のため、その殆どが白い花の白梅になっています。⁸
- **保全活動等の場**：桑原・鬼柳用水路では、「市の魚」である在来のメダカや希少植物が生息・生育しており、市民や環境関連団体による保全活動等も行われ、貴重な環境が大切に守られています。

⁷ 出典：日本全国標準土地利用メッシュデータ（国立環境研究所）

⁸ 出典：曾我別所梅まつり観光協会 HP <https://soganosato.com/index.html>

- **神社・寺院**：神社や寺院が多数あります。社寺林は、生活の身近にある緑として住環境の向上や心の安らぎに寄与します。また、一般的に神社・寺院の境内は、こどもの遊び場としても役立ってきました。
- **その他の資源**：北部には「酒匂堰」があります。過酷な労働に加え、天災など種々の要因による凶作の不安に脅える状態が続いていましたが、戦後になり農業基盤の改善が急速に進められました。酒匂川以東の水田を潤す「酒匂堰」は、酒匂川左岸土地改良区によって昭和 27 年（1952 年）に着手、満 7 ヶ年を費やし完成したものです。⁹
- **景観スポット**：「曾我山（大磯丘陵）」からは、山裾に広がる梅林を見下ろしながら富士山を見ることができます。早春の梅の花、夏はミカンの花の香り、秋は色づいたミカンなど四季折々の色が楽しめます。¹⁰また、「足柄平野」に広がる水田と、そこから眺める四季折々に変化する空や雲、山の美しい風景は、小田原の原風景にもなっています。

～食のつながり～

- **米**：広範囲を占める水田は、市内でも上位¹¹の面積を保有しており、食を供給しています。
- **果樹**：東部では梅林などの果樹園が広がっています。

～生活環境とのつながり～

- **土壌の調整**：樹木や草などの植物には、根により土壌を保持する機能があります。土壌に含まれる栄養塩類は河川へ流入し、植物プランクトンのエネルギー源となりますが、過剰に供給されると水質悪化につながります。植物の根が保持する土壌により、河川へ流入する栄養塩類の量を調整することができます。土壌による栄養塩類（窒素）の維持量を評価¹²すると、市内で 3 位となります。

【地区で見られる特徴的な自然】

鳥獣保護区や天然記念物等に指定されるなど、大切に守り残していきたい自然環境が存在しています。

- **鳥獣保護区**：「酒匂川」は、希少鳥獣生息地（環境省レッドリストまたは神奈川県レッドデータ生物調査報告書において絶滅危惧が高いランクにある鳥獣の生息地であって、これらの鳥獣の保護上必要な地域）として、鳥獣の捕獲を禁止し、その生息環境を適切に保全しようとする区域として、神奈川県鳥獣保護区に指定されています。
- **生物多様性保全上重要な里地里山・神奈川県里地里山保全等地域**：上曾我は、さまざまな命を育む豊かな里地里山を、次世代に残していくべき自然環境の一つであると位置づけ、次表のとおり保全地域に選定されています。

⁹ 出典：小田原市 HP 小田原デジタルアーカイブ <https://www.city.odawara.kanagawa.jp/darc/item/197/>

¹⁰ 出典：小田原ふるさとの原風景百選（小田原市環境部環境政策課，平成 19 年（2007 年））

¹¹ 出典：農林業センサス 2015

¹² 出典：環境省(2016) Japan Biodiversity Outlook 2. <http://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/index.html>

生物多様性保全上重要な里地里山（環境省選定）概要

名称	選定理由	保全活用状況
上曾我	市の北東部に位置し、曾我山の緩やかな傾斜面の樹林地と水田地帯からなる地域である。 古くからある集落に発達した社寺林・屋敷林が残されており、里地里山に特徴的な種であるエノキが生育している。また、当地区は不動山・浅間山を中心とするまとまりの緩衝地帯と考えられており、地域の生態系ネットワークの形成において重要な地域である。	農林業等の生業・くらしの場として保全活用されている。

※出典：生物多様性保全上重要な里地里山 <https://www.env.go.jp/nature/satoyama/jyuuyousatoyama.html>

里地里山保全等地域（神奈川県選定）概要

名称	所在地	概要
小田原市上曾我里地里山保全等地域	小田原市上曾我、曾我岸、曾我大沢、曾我別所の各一部	小田原市の北東部に位置し、東の曾我山から西にかけての緩やかな傾斜地と、西の水田地帯からなる地域

※出典：かながわの里地里山 <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/n8f/cnt/f300562/index.html>

- **神奈川県生物多様性ホットスポット**：「酒匂川左岸の水田地帯」は、希少な植物、昆虫、魚類が生育・生息していることから、神奈川県生物多様性ホットスポット（NPO 法人神奈川県自然保護協会選定）に選定されています。

神奈川県生物多様性ホットスポット選定理由

名称	選定理由
酒匂川左岸の水田地帯	希少種、レッドリスト種などが集中して産する地域

※出典：かながわの自然 No.67（NPO 法人神奈川県自然保護協会、平成 30 年（2018 年））

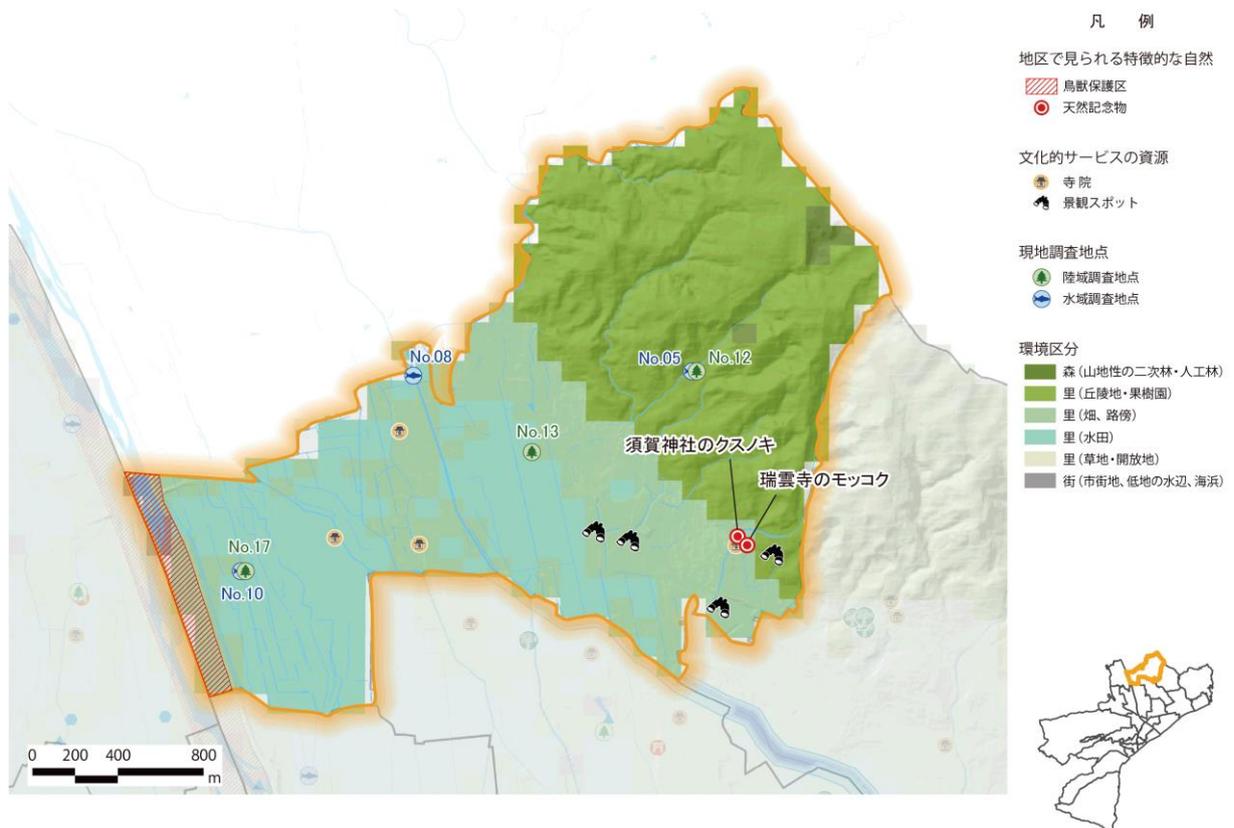
- **天然記念物**：「瑞雲寺」「須賀神社」の次表に示す樹木は、天然記念物に指定されています。

天然記念物概要

名称	指定	指定年月日	所在地	概説
瑞雲寺のモッコク	市	昭和63年（1988年） 11月1日	瑞雲寺	モッコクは、本州（東海道・近畿南部以西）、九州の近海地方に生育する暖地性樹木だが、植栽分布は関東北部、北陸地方の日本海側、東北地方（秋田・宮城・福島）に及んでいる。 この木は、瑞雲寺庫裏の東側、寺林内の中腹に生育し、本市内では最大級の古木。瑞雲寺の寺林は、寺の東北側に隣接する、須賀神社の社叢に続いている自然林的な要素を備えている。この木の近くには、クスノキの大木や、イロハカエデの古木があり、また、ヒサカキやアオキなどの低木も多く生えているため、この木は自生樹と考えられる。
須賀神社のクスノキ	市	平成5年（1993年） 11月1日	須賀神社	クスノキは、元来九州の立花山以南の温暖な気候で多く自生する常緑高木で、6月頃淡黄色の小花を開き全体から芳香を発する。材質が堅く虫に強いため建築材や家具の材料として適していたことから、古代より栽培されるなどして本州の関東以西に分布の範囲を広げてきた。 須賀神社のクスノキは、社殿の左側に位置し、やや左に傾いて力強い樹形をしていて、房総半島を北限とするオオバヤドリギが30箇所近くも着生している珍木。地元では寄生木として不思議なため、豊穡の御神木として大切にされている。

※出典：小田原市 HP「天然記念物」をもとに作成 <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/lifelong/property/cultural/natural/>

- **重要地点**：平成 29 年（2017 年）～30 年（2018 年）に実施した自然環境調査結果の評価・分析を行ったところ、現地調査結果を踏まえ多様性が高いと評価された現地調査地点「陸域 No.12（上曽我の二次林及び農耕地）」、及び重要種が多いと評価された現地調査地点「陸域 No.13（上曽我の水田地帯）」「陸域 No.17（桑原・鬼柳用水路周辺の水田地帯）」を将来に渡り守っていくべき重要地点として選定しました。



曽我地区の自然環境マップ